

11/25 午後

## 辺野古設計変更認めず

軟弱地盤工事 沖縄県が近く表明

沖縄県の玉城デニー知事

は二十四日、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の移設先、名護市辺野古治摩部の埋め立て海域東側にある軟弱地盤の改良工事のため、防衛省沖縄防衛局が申請した設計変更を認めない方針を固めた。二十五日にも正式表明する。県関係者が明らかにした。来年の名護市長選や知事選を見据え、県と政府側の攻防は最終段階に入る。

防衛省幹部は取材に「対抗措置を取る。沖縄側が認

めないと想定し準備は

進めていた」と語った。県と政府は再び法廷で争うことになるとみられる。

県はこれまで複数回にわたり、防衛局にシコロンなど環境保全への配慮や、軟弱地盤の調査方法などに関する質問書を送付。防衛局は、調査方法は適切とした上で生態系への悪影響も否定了。県は「うした回答を精査し、申請は認められないと判断した」。

先の衆院選では、玉城氏を支える勢力「オール沖

縄」の推す立候補者が、名護市を含む沖縄3区で敗北した。来年一月の名護市長選は、移設推進の自民党側が推す現職と、オール沖縄側の新人の一騎打ちとなる見通し。玉城氏が対決姿勢

を改めて打ち出したのは、来年秋の知事選に向け、求心力の回復を図る狙いもありそうだ。設計変更是、県の承認から運用開始まで少なくとも十二年、総工費を九千三百億円とする内容。